

感染症対策

感染症(新型コロナ、インフルエンザなど)が流行中であっても災害時には**危険な場所にいる人は避難することが原則**です

適切な避難行動をとるために…
知つておくべき5つのポイント

1 避難とは『難』を『避』けること

自宅での安全確保が可能な人は、**感染のリスクを負ってまで避難所に行く必要はありません。**

2 避難先は学校・公民館だけではありません

避難所が過密状態となることを防ぐため、**安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。**

3 マスク・消毒液・体温計が不足しています

避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ**自ら携行してください**(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)。

4 避難場所、避難所の変更・増設を確認

本書発行後に情報が変わることもあります。
常に最新の情報を確認しましょう。

5 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です

やむをえず車中泊をする場合は、避難場所への経路など周囲の安全確認を十分に行ってください。

避難先では感染症予防に努めましょう

● 避難所に入る前に

感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。
避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。

● 手洗い、うがいをこまめに

食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いを。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。

● 咳エチケットの徹底

飛沫感染の予防のため、咳などが出ていてもマスクを着用しましょう。

● 換気の実施

可能な限り、定期的に換気を行いましょう。
換気は季節を問わないので、寒暖差への防寒対策も必要です。



● 「3密」(密閉・密集・密接)の回避

避難者同士2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用してと、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。

● 日々の健康状態をチェック

継続的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。

火災対策

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけると石油が飛び散って危険)。石油が流れていがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら軽げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

浴室

浴室からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を断つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ
ホースをはずして火元に向ける。
レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

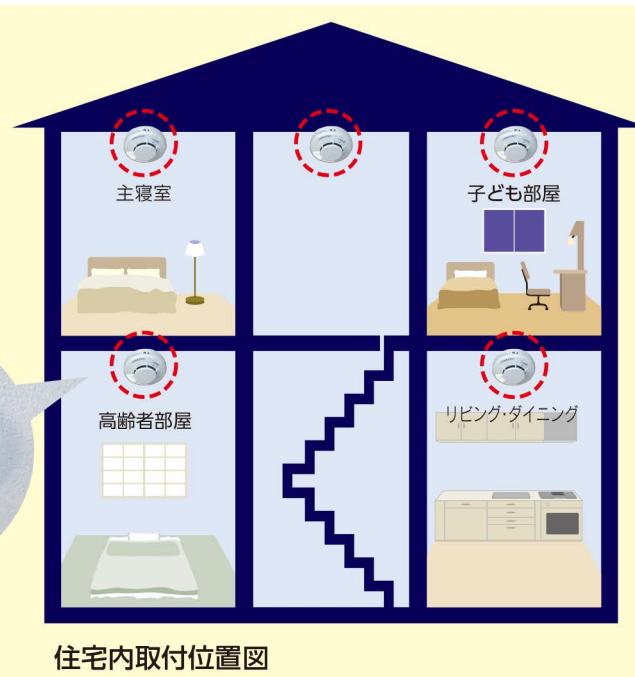
火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある階の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置も推奨されています。



注意：住宅用火災警報器は電池式のものが主流です。電池の寿命は5年から10年と言われていますので、早めの交換をお願いします。